

# 会 議 録 (要旨)

会議名	田川市新中学校のあり方に関する審議会 第2回会議
開催日時	平成26年11月7日(金) 10時～12時
開催場所	田川市民会館 集会室
出席者	(委員) 神谷委員、四戸委員、大宅委員、二場委員、児島委員、中山委員 穂山委員、浦野委員、加治委員、森委員、財津委員、崎原委員 (事務局) 尾垣教育長、犬丸教育部長、小林学校教育課長、大峯教育総務課長、 山本生涯学習課長、大久保学校教育課主任

審議事項	審議内容
アンケートの実施について ※第1回会議の 継続審議事項	<p><b>【事務局の説明】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>アンケートの実施者は審議会とする。市立小中学校の全保護者、未就学児の全保護者、無作為抽出した一般市民1,500人を対象に実施する。アンケートの目的は住民意識を把握すること、再編を進めていることを住民に周知することである。</li> </ul> <p><b>【委員の質問・意見】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>再編の時期について、目標や目処が書かれていないが、受け取り手の感覚に任せることになっていいのか。おおよその目標時期を入れないとアンケート結果の精度や信憑性が下がらないか。</li> <li>実施時期を入れた場合、我が子が再編に関係ないと判断した保護者は回答してくれないのではないか。</li> <li>「再編するならどのくらいの時期が望ましいか」という質問項目を設ければ、回答者が意識している実施時期がわかるのではないか。</li> <li>遠い将来のことと思われると市民の意識が薄れるので、10年以上先を想定に入れたいほうがよい。</li> <li>過疎債の制度が平成32年度まで期間延長されたが、その先も有利な借金ができるとは限らないので、あまり遠い将来は考えないほうがよい。</li> <li>スクールバスに関する設問で、学校からの距離が選択肢の回答に使われているが、理由は何か。通学所要時間のほうがわかりやすいのではないか。</li> <li>スクールバスは、学校専用バスを指すのか、コミュニティバス等も含めたものか。</li> <li>自由選択制は、猪位金学園に他校から通うことを想定した質問か。</li> <li>自由選択制が、猪位金学園も含めた設問であるなら、そのことを明記しなければ、回答者が判断に迷うのではないか。</li> <li>結果の公表はすべきだが、アンケート結果を単独で公表するよりも、審議会の答申とあわせて公表するのが望ましいのではないか。</li> </ul>

審議事項	審議内容
	<p><b>【事務局の回答・意見】</b>  (バス利用の距離について)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>保護者が考える徒歩通学の望ましい距離についての質問と、選択肢をそろえている。バス利用を認める場合、どの距離から認めるかの判断材料にする考えである。</li> <li>(スクールバスの種類について)</li> <li>現段階でスクールバスの具体的な運行方法を検討しているわけではないがこの設問でいうスクールバスは、コミュニティバス、民間の路線バスを含む全ての運行バスを指す。設問に注意書きを加えて分かるようにしたい。</li> <li>(自由選択制について)</li> <li>再編後のすべての学校を自由選択制にした場合を想定した設問である。設問には、猪位金学園も含まれていることが分かるように文言を加えたい。</li> </ul> <p><b>【決定事項】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>再編実施の目標年度などは明記しない。</li> <li>「どのくらいの実施時期が望ましいか」という質問を設ける。ただし10年以上先は想定に入れない。</li> <li>本日の修正をもってアンケート調査票の内容を決定し、11月19日から配布する。</li> </ul>
<p>[審議資料1]  学校適正規模  推進の流れ</p>	<p><b>【事務局の説明】</b></p> <p>国は、市町村の適正規模推進を後押しするため、統廃合の新たな指針と財政的支援策の準備を進めている状況である。田川市ではこれまで、平成18年1月に審議会が答申した短期、中期、長期の目標に沿って適正規模推進に取り組んできた状況である。</p> <p><b>【委員の質問・意見】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>平成18年1月の審議会答申が、猪位金小中一貫校の設置を提言した理由が分かる会議録はないのか。</li> </ul> <p><b>【事務局の回答・意見】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>他校までの距離が遠いことが理由であることは、答申書に明記されているが会議での経過が分かるものない。</li> </ul>
<p>[審議資料2]  基本方針</p> <p>※審議資料は別途  掲載しています</p>	<p><b>【事務局の説明】</b></p> <p>「田川市立学校 校区再編基本方針」は、市教委が小規模校が抱える課題を解消するために、これから進める学校の適正規模化について、基本的な方針を定めたものである。時間の経過や状況の変化により、平成18年の答申が掲げた手法では、適正規模推進が実現できない状況となっている。そのため、平成18年の答申が求めた理念をもとに、平成25年に市教委の方向性を再構築したものである。</p> <p><b>【委員の質問・意見】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>田川市の中学校の生徒数が今現在約1,200人ということだが、将来推計はあるか。</li> </ul>

審議事項	審議内容
	<p><b>【事務局の回答・意見】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>市全体の人口推計は、平成22年度を基準にすると平成32年度で10%減少、平成42年度で22%減少する見込み。さらに14歳以下の人口では減少傾向が著しく、平成32年度で22%減、平成42年度で39%が減少する見込みである。</li> </ul>
<p>[審議資料3] 策定方針</p>	<p><b>【事務局の説明】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>基本方針策定後、市教委において、校区再編シミュレーションによる学級数の予想や、小中一貫教育と学校適正規模推進の関係性の整理を行った。その研究を踏まえ、基本方針が目指す教育環境を具体化するために、基本計画の「策定方針」を定めた。以下はその方針。 <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 新たな中学校区の境界線は、現小学校区の境界線に沿って設ける</li> <li>(2) 学校適正配置の校数は、2校を基本とする</li> <li>(3) 小中一貫校の新設は、校区再編の軸としない</li> </ul> </li> </ul> <p>※ただし、(2)の決定は、通学距離、時間、方法、安全性などの適正を検証した上で行うとしている。</p> <p><b>【委員の質問・意見】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>シミュレーション等の数字は次回の会議で提示されるとのことなので、それを見ながら審議したい。</li> </ul>
<p>[審議資料4] 小中一貫教育と 適正規模の関 係</p>	<p><b>【事務局の説明】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>一貫校推進と適正規模推進は、解消しようとする課題が異なる。小中一貫校推進は主に中一ギャップの解消が目的であり、適正規模推進は生徒減少による教育環境低下の解消が目的である。従って一方が他方の問題を解決するものではない。猪位金学園は、小中一貫校となったが、小規模校としての課題を残したままである。なお、小中一貫校は施設一体型に限らず、小中学校が分離していても実施できるものであり、国が目指す制度化はどちらも想定している。</li> </ul> <p><b>【委員の質問・意見】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>適正規模を推進したら小中一貫校はできないとか、小中一貫校にしたら適正規模を進めなくていいとかいう問題ではない。二つは別問題であるが、審議会では、新中学校と小学校の接続のあり方は考えていかなければならない問題ではないか。</li> </ul>